

大浜海岸にはめずらしい植物がいっぱい!

国の天然記念物であるアカウミガメの上陸・産卵地大浜海岸。

その砂浜と岩崖を彩る海辺の植物たち。

このかけがえのない豊かな自然を21世紀を担う子ども達に残しましょう。



コウボウムギ (カヤツリグサ科)

多年草 4 5 6

雌雄異株。ヤクを付けた雄花穂と麦の穂に似た雌花穂がある。飛砂や流砂を防ぐ。大浜海岸にコウボウシバとともに多く見られる。



コウボウシバ (カヤツリグサ科)

多年草 4 5 6

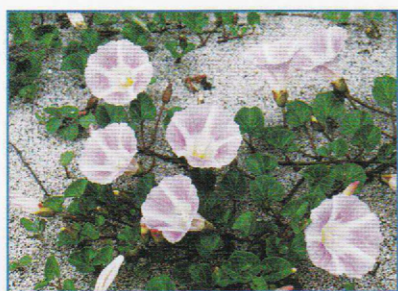
茎の先に雄小穂、地面近くに雌小穂をつける。葉は茎より長く地下茎でふえる。



ハマボウフウ (セリ科)

多年草 5 6 7

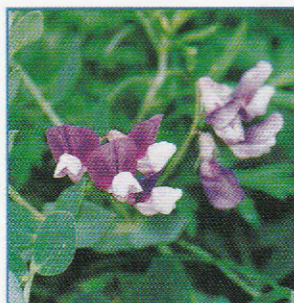
根は砂の中に深く、まっすぐ下にのびる。葉は厚く表面に光沢がある。茎の頂に複散形花序を出し、小さな白い花がたくさん集まって咲く。



ハマヒルガオ (ヒルガオ科)

多年草 5 6 7

町内砂浜のいたるところに見られ、地中に白色の地下茎が連なり、初夏の頃淡桃色の漏斗状の花をつける。



ハマエンドウ (マメ科)

多年草 4 5 6

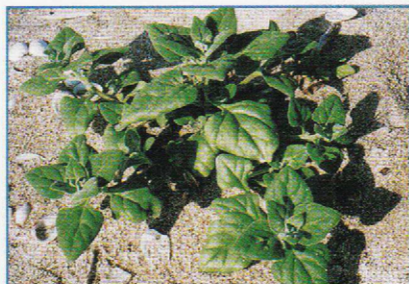
全体に白っぽい緑色で茎は地面をはい、先に短い巻きひげがあるが、これで物に絡むことはない。地下茎をのばして繁殖し、赤紫色の蝶形花をつける。



ハマゴウ (クマツヅラ科)

落葉低木 7 8 9

葉は卵形、葉裏は毛があり白色。枝先に紫色の小花が群がり咲き、小円形の果実を結ぶ。昔はこの実を集め、枕を作るとシバガラの代用とした。地元の人々は、ホウの木と呼び親しんでいた。



ツルナ (ツルナ科)

多年草 5 6 7 8 9

全体は多肉質で毛がなく、葉は厚く軟らかい。花は葉柄のもとに1~2個つく。



マルバシヤリンバイ (バラ科)

常緑低木 5 6 7

葉は卵形・葉質厚く光沢があり、枝の先端に集まっている。花は白色5弁の梅の花に似た小花がつき、秋には実が黒色に熟す。



トベラ (トベラ科)

常緑低木 4 5 6 7

高さは2~3m。葉は互生し厚く革質で光沢があり、乾けば両縁から裏に巻き、長さ5~9cm、花は白色から黄色になり芳香がある。



タイトゴメ (ペンケイソウ科)

多年草 5 6 7

海岸の岩石のすき間や崖にはえる。主茎の上部と側枝は直立して群生状になる。葉は小型で多肉質。側枝の先に黄色い花がつく。



ハマナデシコ (ナデシコ科)

多年草 5 6 7 8

茎の下部はかたく木質。葉は厚く、光沢がある。紅紫色の花が、茎の先に密集して咲く。



テリハノイバラ (バラ科)

落葉低木 5 6 7

海辺や川岸にはえる小低木。茎は地表をはう。葉は表面に光沢があり無毛。5弁の大きな花がつく。

大浜海岸の植物群落分布図



絶え間なく吹きつける潮風

強い太陽の日差し。

植物が生きていくには

厳しい環境の中で

海浜植物たちは生きている。

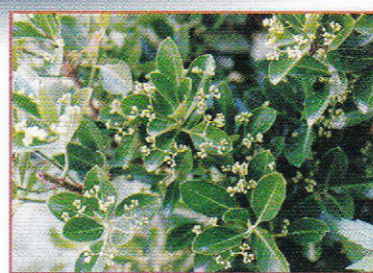
— 日和佐町史より —



シオギク (キク科)

多年草 10 11 12

葉が栽培菊に似て葉裏は銀灰色。枝先に黄色の小花を多数つける。徳島県蒲生田岬から太平洋岸に沿って、高知県物部川までの海岸の崖に見られ、日本でこの区域内だけに自生している。



マサキ (ニシキギ科)

常緑低木 6 7 8

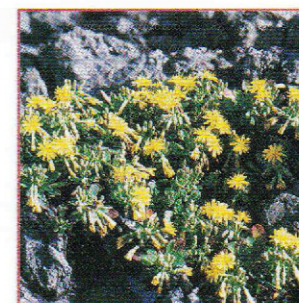
庭木や生垣としても栽培する。高さ3m位。葉は長さ4~8cm、革質で光沢がある。花は初夏、若枝の花序につく。



ハマボス (サクラソウ科)

二年草 4 5 6 7

海岸の岩上などにはえる。葉は束生、多肉質で表面に光沢。花穂は次第にのびる。



アゼトウナ (キク科)

多年草 10 11 12

根は太くその先は主茎が短く、根生葉が群生し、そのわきから四方に側枝が分かれて斜めに立つ。葉はやや厚い。